```
理論物理学者。"二中間子仮説"や"坂田模型"で,素粒子論に画期,民主的教育や平和運動にも積極的だった。
坂田昌一
さかたしょういち
大逆事件判決1911=
            東京市麹町区永田町の総理大臣官邸内の秘書官官舎で,坂田幹太・佳津江の長男に生まれる。首相桂太郎に
```

より昌一と名づけられる。 明治天皇没・1912 = 1歳:父が福岡県に赴任。祖母・母とともに東京に残り,以後,麹町区内秘書官官舎を転々。

民本主義・・1916 = 5歳:父の愛媛県知事赴任に伴い,松山市の知事官舎に転居。

□シア革命・1917 = 6歳:父が香川県知事となり,高松市の知事官舎に転居。高松師範付属小学校に入学。

水平社結成・1922 = 11歳:甲南学園(小学校)第四学年修了し,甲南中学校に入学。

護憲三派圧勝1924 = 13歳:この頃,受信機の製作に凝り,荒勝文策の影響をうける。

円本時代始・1926 = 15歳:高等科理科乙類に進学。在学中,\_石原純の講演を聞き,以後文通。エスペラントのクラブで加藤正と知り

あい、エンゲルスの遺稿「自然弁証法」を知ったほか、物理学についても教えられる。

世界恐慌・・1929 **= 18歳:**卒業。東京帝国大学理学部物理学科の聴講生となる。**\_大叔母の義弟仁科芳雄を訪ねる。** 

海軍軍縮条約1930 = 19歳: \_京都帝国大学理学部物理学科に入学。

満州事変・・1931 = 20歳: 京大での仁科芳雄の特別講義に出席,量子力学の勉学に志す。 五一五事件・1932 = 21歳: 湯川秀樹の示唆により,原子核の理論的研究を卒業論文のテーマとし

国際連盟脱退1933 = 22歳: \_卒業。東京の理化学研究所仁科研究室に入り,武谷三男,朝永振一郎と知合う。 帝人疑獄事件1934 = 23歳: \_大阪帝国大学理学部助手として赴任,湯川秀樹の協力者となり, 芥川直木賞始1935 = 24歳:原子核のK電子捕獲の研究,

日中戦争始・1937 = 26歳:\_中間子論第二論文で,中性中間子の必要性を提唱。

日本報子が 1938 = 27歳: 講師となる。湯川・武谷三男と協同で第三論文,小林稔を加えて第四論文, 第二次大戦始1939 = 28歳: 生化学者柿内三郎の次女信子と結婚し,京都に新居。湯川に従って京都帝国大学に移り,理学部講師。 大政翼賛会・1940 = 29歳: 学術研究会議物理学研究委員会委員。谷川安孝と協同で,中性中間子のガンマー線崩壊の研究。 日米開戦・・1941 = 30歳: 長女が誕生。\*「中間子の自然崩壊に関する理論的研究」で理学博士。 ・・・・・1942 = 31歳: 次女が誕生。前年湯川と共著の岩波講座(物理学)の1巻が単行本「物理学と方法」」となる。谷川安孝らと 同で二中間子論を提唱。名古屋に転居,**\_新設の名古屋大理学部の教授となり,終生その職を務める。** 

創価学会検挙1943 = 32歳:理化学研究所での戦前総決算となる中間子討論会で「素粒子論に於ける模型の問題」についての講演。

創価字会検挙1943 = 32歳 : 珪元チップルグ に シェルトラップ・スティップ・スティップ に チェ+総武装 1944 = 33歳: 長男が誕生。 取戦・・・・1945 = 34歳: 空襲受け,家族を疎開させ,自身は転々後,理論物理学関係の研究室の疎開先長野県諏訪郡富士見村に移り ,家族も一緒になる。パーナル「科学の社会的機能」を熟読。武谷三男を招き討論,C中間子論を着想。 、家族も一緒になる。パーナル「科学の社会的機能」を熟読。武谷三男を招き討論,C中間子論を着想。

, 家族も一緒になる。ハーナル「科字の社会的機能」を熟読。武谷三男を招き討論,に中間子論を看想。 新憲法公布・1946 = 35歳: \_物理学科で教室会議による民主的運営の端緒を開く一方,湯川の創刊した英文雑誌に「二中間子論」発表, 新憲法施行・1947 = 36歳: 翌年にかけて,風邪と過労により病臥。「物理学と方法」出版。\_朝永のくりこみ理論にも影響を与え, 極東裁判決・1948 = 37歳: 協同で混合場理論を展開。\_「二中間子論以降凝集力中間子論に至る素粒子理論の研究」で中部日本文化賞。 三大事件・・1949 = 38歳: 名古屋市千種区に転居,生涯の住処となる。発足した日本学術会議会員となるも,紛争で混乱。素粒子論グループ研究連絡組織結成。\_「二中間子仮説の提唱」で朝日賞。 朝鮮戦争始・1950 = 39歳:科学者平和問題懇談会結成発起人。\*「二中間子仮説の提唱」で学士院恩賜賞。 独立回復・・1951 = 40歳:湯川・武谷と共著「真理の場に立ちて」。星野芳郎らと共訳でバナール「科学の社会的機能」。「物理学と方法」 周刊。\_コペンハーゲンでの国際物理学連合の総会と量子物理学会に招聘されるも旅券が発給されず断念。

再刊。\_コペンハーゲンでの国際物理学連合の総会と量子物理学会に招聘されるも旅券が発給されず断念。

示化・放送始・1953 = 42歳: 京都での国際理論物理学会で,インフォーマル・ミーティングの司会。京都大学基礎物理学研究所の発足に伴い,運営委員会委員となる。以後改選毎に選出され終生その任にあたる。
自衛隊発足・1954 = 43歳: 学符会議原子カ三原則(公開民主自主)を声明。コペンハーゲン大学理論物理学研究所に遊学。

55年体制始・1955 = 44歳: 初の原水爆禁止大会に出席。\*新粒子の複合模型-坂田模型-をとなえ,素粒子論に大転換をもたらす。

国連加盟・・1956 = 45歳: 名古屋大学評議員となる。ストックホルムの世界平和評議会特別総会に出席で渡欧,帰途ソ連,中国に滞在し,湯川秀樹宛の郭沫若親書を携えて帰国したのをはじめ,\_平和運動にも積極的で,なべ底不況・1957 = 46歳: 日本学術会議原子力問題委員会委員長・日本学術会議原子核特別委員会委員長。

「シスタント・1958 = 47歳: 父が死去。第三回パグウォッシュ会議出席,ウィーン宣言作成に参加,コペンハーゲンを訪れて,帰国。美智子の・1959 = 48歳:「量子力学の解釈をめぐって」を執筆。協同で\_<名古屋モデル>を提唱,安保闘争・・1960 = 49歳: 日本学統会議原子力特別委員会委員長

••1960 = 49歳:日本学術会議原子力特別委員会委員長。

イタイイタイ病始・1961 = 50歳:「新素粒子観対話」執筆。

全国総合計画1962=51歳:坂田模型の発展を中心に編集された「Structure of Elementary Particles」発刊。協同で<新名古屋模型>提

唱。 湯川・朝永振一郎らと日本版パグウォッシュ会議として科学者京都会議を開催。 TV宇宙中継始1963 = 52歳:武谷・中村と共編「素粒子の本質」, 湯川・朝永と共編著「平和時代を創造するために」。中国科学代表団が来日し郭沫若と会見。 「科学と平和の創造」を著し、

東京初光\*ック 1964 = 53歳: 素粒子の分子模型原子模型の提唱。 <u>北京シンボジウムの日本代表団団長になるなどしたが</u>、 大学紛争始・1965 = 54歳: 湯川・武谷と共著「素粒子の探究」。 愛知憲法会議結成の呼びかけ人となる。 湯川・朝みとともに,ベニスで の第14回パグウォッシュ会議宛に、米軍のベトナム撤退・毒ガス使用中止要求の決議を行なうよう打電。 いざなぎ景気1966 = 55歳:「科学に新しい風を」。名古屋大学理学部長。東京での第三回科学者京都会議で「科学者の責任」報告。 美濃部都知事1967 = 56歳: ブリュッセルでの会議に出席のため、妻伴って渡欧し、ヨーロッパ諸国を回って帰国。

霞ヶ関に┪り 1968 = 57歳:湯川・朝永と共編著「核時代を超える」。\***この頃より腰痛を訴え,入院。多発性骨髄腫で放射線治療を開始** 

病状悪化のため、化学療法実施。郭沫若より漢方薬の処方が送られるなか、 全共闘・・・1969 = 58歳:一時小康で、夫人とともに長野県野尻高原大学村の別荘に滞在するなどしたが、 大阪万博・・1970 = 59歳:\_郭沫若からの見舞電報に返電文を口述したのを最後に、尿毒症を併発。昏睡状態におちいり、没した。